

令和8年産

稲作こよみ

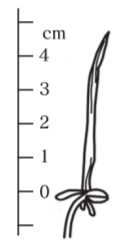
JA米の生産基準

- 種子更新率100%
 - 施肥基準及び農薬の安全使用基準の遵守
 - 適期収穫と異種穀粒混入防止
 - 栽培履歴の記帳・提出
- 「JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう」

水稲育苗基準

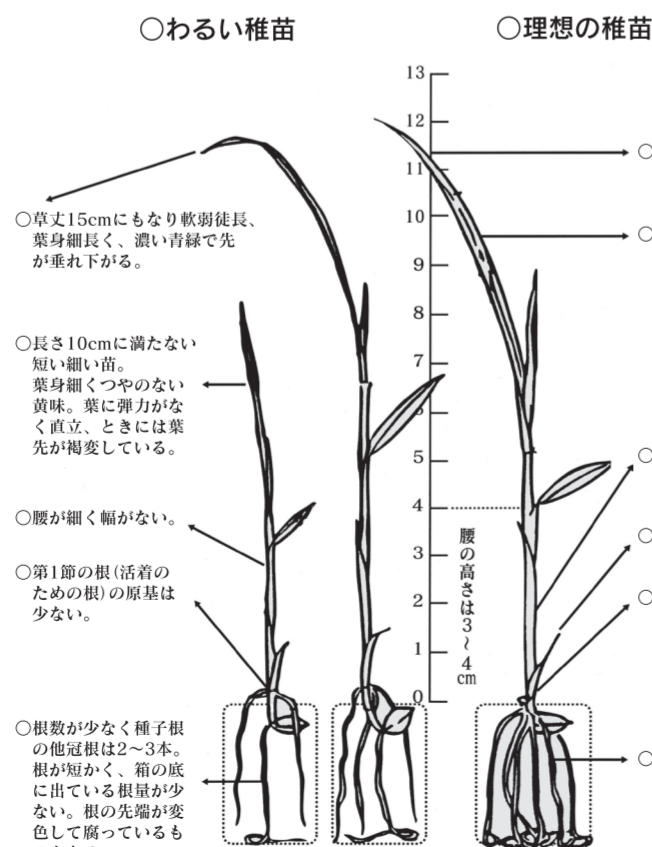
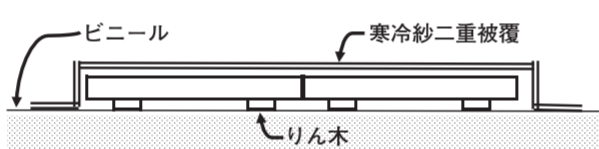
積重ね出芽は高温に遭遇すると高温障害やカビの発生を招く恐れがあるので、5月以降の播種時は平床出芽とする。

主な作業	栽培法及び注意事項	主な作業	栽培法及び注意事項													
育苗場所の選定	①育苗場所は、日当たりや風通しの良い、平らな場所とする。 ②播種直後に30℃を超える日が続くや苗立ち枯れ症の発生リスクがあがるため、熟がこもりやすい場所での育苗は避ける。	平床出芽	①苗箱が傾いていると高い方の出芽や生育が不良となるので、床面を十分均平にし、ビニールを敷き、りん木を並べる。 ②覆土後直ちに育苗箱を苗床に並べ、その上を寒冷紗の二重被覆をする。 ③寒冷紗の被覆期間は二重を5～7日(苗長3～4cm)、その後一重にし2～3日(苗長4～5cm)で完全に外す。 ④水管理 (1)日射が強く、風の強い日などはとくに床土が乾きやすいので、朝からこまめにかん水する。 上部からかん水する場合は、出芽前には日に1回、出芽後は日に2～3回ムラなくかん水する。 (2)夕方(日没後)のかん水は原則として避ける。 (3)被覆除去後下部給水の場合、揚床水苗代とし、1日1回、苗代の床面まで湛水して、十分吸い上げた後、直ちに落水する。													
苗箱の準備 床土の準備	①苗箱はよく水洗いして使用する。 ○育苗培土の場合 ・1箱当たり3.0kgが目安(床土2.0kg、覆土1.0kg) ・昨年開封した培土は使用しない(カビが発生しやすい) ○山土の場合 ・pH5～6のものに、粗穀くん炭を容積比で3割程度混和する。 ・1箱当たり5ℓ準備し(床土は3.6ℓ、覆土1.4ℓ)、育苗肥料(4-4-4)を1箱当たり20g混和する。	併当肥	○田植えが遅くなった場合や苗の葉色が薄い場合に施用する。 ○施用時期:田植えの4～5日前の夕方(高温、乾燥時は避ける)。 ○施用量:硫酸水300倍液を1箱当たり500ml(20箱の場合は水10ℓ当たり硫酸33g)													
種粒の準備	①種子更新は毎年行う。 ②種子は10a当り購入種粒3～4kgを準備する。	健苗のかたち	播種後22～24日 2.3～2.5葉													
塩水選	「購入種子の場合は比重選別機を通していため、基本的には塩水選は不要。」 ①病害の入っていない種粒となるようよく塩水選をする。 ②塩水の比重は卵又は比重計を用いてはかる。 ③塩水選した後の種粒はよく水で洗い流す。	播種	①田植予定日から育苗日数(平床出芽は22～24日)をさかのぼって播種日を決める。5月27日以降に播種する。 ②床土を入れた箱は播種前に十分かん水して播種する。 ③かん水後に苗立枯病の対策でタチガレエースM液剤500倍を1箱当り0.5ℓかん注する。 ④播種量は1箱当り催芽粉で150g(1合3勺)とする。													
種子消毒	①下記の薬剤で24時間浸漬する。 <table border="1"> <tr> <th>種粒量</th> <th>水量</th> <th>薬剤名</th> <th>使用料</th> <th>適用病虫害</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">10kg</td> <td rowspan="2">20ℓ</td> <td>テクリド(フロアブル)</td> <td>100ml</td> <td>いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病</td> </tr> <tr> <td>スミチオン乳剤</td> <td>20ml</td> <td>イネシシガレシキウ</td> </tr> </table> ※浮きもみが多い場合は塩水をうすめて下さい。	種粒量	水量	薬剤名	使用料	適用病虫害	10kg	20ℓ	テクリド(フロアブル)	100ml	いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病	スミチオン乳剤	20ml	イネシシガレシキウ	浸種・催芽	①浸種期間は種子消毒の24時間を含めて4～5日程度(積算水温100℃が目安)。 ②浸種中は酸素供給のため毎日水をかえる。また、上下で水温が違いため、芽出しが揃うように上下の網袋を入れ替える。 ③催芽の程度は鳩胸の状態(0.5～1mm程度発芽)か9割程度を目安とする。 ④播種作業がスムーズに行くように種粒は播種前日に水揚げし、半日程度陰干しする。
種粒量	水量	薬剤名	使用料	適用病虫害												
10kg	20ℓ	テクリド(フロアブル)	100ml	いもち病 ばか苗病 もみ枯れ細菌病												
		スミチオン乳剤	20ml	イネシシガレシキウ												
種子の準備	種粒の種類 比重 水10ℓに溶かす量 食塩 硫酸 うるち 1.10 1.42kg 1.92kg もみ 1.08 1.11kg 1.46kg (注)食塩か硫酸のいずれかを用いる。	覆土	①覆土は種子が完全にかくれる程度とする。なお平床出芽では必ず育苗培土(1kg)を使用する。													
塩水選	1.13 1.08 卵	播種量の目安	<table border="1"> <tr> <th>播種量/箱</th> <th>育苗日数</th> <th>田植適期</th> <th>苗箱数/10a</th> </tr> <tr> <td>乾種 120g(1合)</td> <td rowspan="2">20日～28日</td> <td rowspan="2">23日</td> <td rowspan="2">17箱</td> </tr> <tr> <td>催芽粉 150g(1合3勺)</td> </tr> </table> ○密苗(1箱に催芽粉200～300g播種)についての注意点 ・専用の播種機、田植え機が必要であるためメーカーの説明に従って育苗する。 ・播種量が多く、苗質が劣る傾向がある(特に病気の発生には注意が必要)。	播種量/箱	育苗日数	田植適期	苗箱数/10a	乾種 120g(1合)	20日～28日	23日	17箱	催芽粉 150g(1合3勺)				
播種量/箱	育苗日数	田植適期	苗箱数/10a													
乾種 120g(1合)	20日～28日	23日	17箱													
催芽粉 150g(1合3勺)																



はくする時期の目安

苗箱の設置の仕方



	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
水管理	代かき 浅水たん水 間断かん水 中干し 間断かん水 たん水 間断かん水 落水																	
本田主要作業	土づくり 麦ワラのすき込み 耕起 代かき 除草剤散布 田植 基肥施用 穂肥I(夢一献) 穂肥II(ヒノヒカリ) 出穂期 成熟期 適期収穫 稲ワラのすき込み																	
病虫害防除基準	<ul style="list-style-type: none"> △補正防除 ●基本防除 ●箱施薬① または② △病害虫防除① ●病害虫防除② または③ ●病害虫防除④ または⑤ △病害虫防除⑥ または⑦ 																	

	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
水管理	代かき 浅水たん水 間断かん水 中干し 間断かん水 たん水 間断かん水 落水																	
本田主要作業	土づくり 麦ワラのすき込み 耕起 代かき 除草剤散布 田植 基肥施用 穂肥I 穂肥II 出穂期 成熟期 適期収穫 稲ワラのすき込み																	
病虫害防除基準	<ul style="list-style-type: none"> △補正防除 ●基本防除 ●箱施薬① または② △病害虫防除① ●病害虫防除② または③ ●病害虫防除④ または⑤ ●病害虫防除⑧ または⑨ ●病害虫防除④ または⑤ ●病害虫防除④ △病害虫防除④ 																	

品種特性 ※福岡県における主要農作物の品種特性より

品種名	出穂期	成熟期	稈長	収量	耐倒伏性	いもち耐病性
夢一献	8/25	10/8	75cm	566kg/10a	強	中
ヒノヒカリ	8/26	10/6	84cm	554kg/10a	やや弱	やや弱
ヒヨクモチ	9/6	10/26	69cm	546kg/10a	極強	やや弱

施肥基準 収量・品質向上、病害虫回避のため施肥規準を遵守しましょう。

- ◇土づくり 作物にとって土壌を良好な状態に保つため、有機物(堆肥や麦わら等)や土壌改良資材(粒状ミネラルG 160kg/10a)を施用する。
- ◇麦ワラすき込み ①ワラは長めに切る②耕うん(荒起こし)は早めの時期に通常より深く耕す ③こく浅水で代かきする④すき込み開始3年間は基肥10kg(一発肥料5kg)増肥する
- ◇本田施肥(10a当り)

品種名	基肥	穂肥I	穂肥II	基肥一発肥料	
ちくごのめぐみ 444		NK2号又はちくごのめぐみ 444		中稲一発	エムコート020晩生
夢一献	40	20	15	50	—
	30(大豆・ハトムギあと)			40(大豆・ハトムギあと)	—
ヒノヒカリ	40	20	—	40	—
	20(大豆・ハトムギあと)			30(大豆・ハトムギあと)	—
ヒヨクモチ	40	20	15	—	50
	20(大豆・ハトムギあと)			—	40(大豆・ハトムギあと)

※野菜後は地力が高まり肥料成分も残っているため、基肥一発肥料ではなく基肥を基準量の1/3(多くても1/2)程度に減らし、穂肥は生育に応じて減肥する。

箱施薬

薬剤名	使用量・希釈倍数	使用回数	散布時期	備考
①ブーンクロノス箱粒剤	50g/箱	1回	播種時～移植当日	ウンカ類・コブノメイガ・いもち病※播種時とは覆土前のごと。
②ブイゲットフェルテラゼクサロン粒剤	50g/箱	1回	緑化期～移植当日	ウンカ類・コブノメイガ・いもち病※緑化期とは被覆資材を取り除く以降のごと。

除草剤基準

◇初期および初中期一発処理

除草剤名	10a当り使用量	散布時期	備考
サラブレットKAI	1キロ粒剤	1kg	・散布時は水の出入りを止め、湛水状態で均一に散布 粒剤、フロアブル剤:水深3～5cm ジャンボ剤:水深5～6cm ・散布後3～4日後は常時湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ・ウルティモZはコウキヤガラ等に安定した効果を示し、アゼガヤ等畦畔侵入雑草にも有効
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10バック	
ウルティモZ	フロアブル	500ml	移植直後5日～ノビエ3葉期(但し、移植後30日まで)
	ジャンボ	10バック	

生育中期処理

○イネ科が多く残る場合

除草剤名	10a当り使用量	散布時期	備考
クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg	移植後25日～ノビエ5葉期・収穫30日前まで	湛水散布
クリンチャーEW	100ml	移植後20日～ノビエ6葉期・収穫30日前まで	湛水散布または落水散布。希釈水量25～100ℓ

イネ科・広葉雑草がともに残る場合

除草剤名	10a当り使用量	散布時期	備考
ウィードコア1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期(但し、収穫60日前まで)	湛水散布
クリンチャーバスME液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期・収穫50日前まで	落水散布。希釈水量70～100ℓ
ロイヤント乳剤	200ml	移植後20日～ノビエ5葉期・収穫45日前まで	落水またはこく浅く湛水して散布(散布後3日以内に入水すると効果が高まる)クサネムに効果が高い、希釈水量25～100ℓ

病虫害防除基準 農薬の安全使用基準を遵守しましょう。

薬剤名	使用量・希釈倍数	使用回数	散布時期	備考
①ジャンボたにくん	1～2kg/10a	2回	収穫60日前まで	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)。浅水管理にし、水の深い所に集中的に散布する。
②オーケストラロムダンモンカットアー	1,000倍	2回	収穫21日前まで	紋枯病・ウンカ類幼虫・コブノメイガ
③オーケストラロムダンモンカット粉DL	3～4kg/10a	2回	収穫14日前まで	紋枯病・ウンカ類幼虫・コブノメイガ
④スタークルメイト液剤10	1,000倍	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類
⑤アルバリン粉剤DL	3kg/10a	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類
⑥トレボン乳剤	1,000倍	3回	収穫14日前まで	ウンカ類・コブノメイガ、(カメムシ類は2,000倍)
⑦トレボン粉剤DL	3～4kg/10a	3回	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類・コブノメイガ
⑧ダブルカットトレボンフロアブル	1,000倍	2回	穂揃期まで	いもち病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガ
⑨ビームトレボン粉剤5DL	4kg/10a	3回	収穫7日前まで	いもち病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガ

※「アルバリン剤」と「スタークル剤」は同じ成分なので、使用回数は両剤合計して3回以内です。

※農薬を使用する際にはラベルに記載されている登録内容や有効期限を遵守してください。
※農薬が圃場外に飛散しないよう風向きや吐出圧力に十分注意してください。

◆お問い合わせ先：三瀨町農業協同組合農産課(TEL 64-2213) または 久留米普及指導センター(TEL 0942-47-5101)